

	評価すべき点	評価に当たっての意見、指摘等				
<p>全体評価</p> <p>全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している</p>	<p>○課題を抱える企業を戦略的に訪問し、多くの企業の課題を解決するための「ものづくりリエゾンチーム」を設置した。また、関西圏の公設試験研究機関では初の試みとして、利用者から要望が多かった機器開放の利用時間延長サービスの実施を行った。</p> <p>○出かける活動（現地相談など）を推進して企業の課題を把握し、解決につながる支援を推進した。また、法人化を契機に機動性を向上させて企業ニーズに応えた簡易受託研究を創設した。さらに、設備機器開放の時間延長等質の高い新たなサービスを充実させた。</p> <p>○経営企画室が中心となってマネジメント機能の強化等、組織運営体制を強化した。</p>	<p>○産技研が年度計画及び中期計画の数値目標に対して右肩上がりの実績を挙げたことは、全職員一丸となった活動から生まれた素晴らしい成果である。この数値的結果は、産技研が企業目線にたった独創的サービスを企画し、精力的に実施した多数の取組みに裏打ちされている。技術支援を通して中小企業の振興や大阪産業の活性化に寄与するという産技研の目的に沿った実績を積極的にアピールする観点から、具体的な取組効果や研究開発成果などの報告も充実させてほしい。</p> <p>○今後も、「サービス向上に向けた新たな取組の検討」、「研究所全体のレベルアップを図るための組織マネジメントの検討」、「他機関との比較検討による自己評価の継続的实施」等を行い、現状に甘んじることなく更なる発展に向けた法人運営を期待する。</p>				
<p>府民に提供するサービスその他の業務の質の向上</p> <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>A：計画どおり</p>	H24	H25	A	A	<p>○現地相談は「攻め」の事業展開を実施する上での極めて重要な活動指標であるが、積極的に「出かける」活動を推進した結果、目標値を大きく上回る水準で達成した。</p> <p>○簡易受託研究は、法人化を契機に機動性を向上させて企業ニーズに的確に応えた好例であり、その実績値は、産技研職員が「提案型」の企業支援を行った成果を表しているが、利用実績数が目標値を大きく上回る水準で実施した。</p> <p>○研究員の専門的な知識・ノウハウを活用した信頼性の高い依頼試験と、他の公設試では開放していない先端機器まで開放する設備開放は、中小企業の産技研に対する強いニーズの一つであり、産技研の自己収入につながるもので、運営面でも極めて重要な指標であるが、戦略的に、産技研ラボツアーの実施と機器紹介動画の作成・上映を行い、依頼試験及び設備機器開放件数が増加させ、目標値を大きく上回った。</p> <p>○競争的研究資金は、若手研究者の積極的な挑戦を促すことで申請書作成のスキルアップを図り、また、企業が主担となって競争的研究資金に応募する際の支援力向上を目指すために、応募件数を目標値として設定しているが、この目標値を大きく超えて達成した。</p> <p>○利用者から要望のあった開放機器利用時間延長サービスについては、関西圏の公設試では初の試みとして実施できる体制を整え、サービス向上に取り組んだ。</p>	<p>○課題解決力強化のための「ものづくりリエゾンチーム」の設置や、「提案型」企業支援実施など、企業ニーズに的確に対応し、顧客目線での新サービスを開始した点は高く評価できる。今後とも、新しいフレキシブルなサービスの展開を期待する。</p> <p>○今後もサービス向上のためのニーズ調査を行い、利用ニーズの高い設備機器の導入に努められたい。また、顧客企業の要望に一層応えられるよう、機器利用の利便性の向上にも努められたい。</p> <p>○目標達成の取組も重要であるが、その一方で、研究所スタッフの負担が大きくなり過ぎることがないように、今後も、マネジメントに留意するよう付言する。</p> <p>○数値目標を上回ったという報告に留まらず、具体的取組効果や、ユーザーにとって得られた成果等についても報告するよう、今後も留意されたい。</p>
H24	H25					
A	A					
<p>業務運営の改善及び効率化</p> <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>A：計画どおり</p>	H24	H25	A	A	<p>○経営企画室を設置し、理事会・経営会議・業務運営会議・四半期業務実績報告会等の法人運営の重要会議を運営し、自主的・自律的な組織マネジメントを進めた。</p> <p>○組織をフラット化し、プロジェクト研究等に研究科横断で取り組むなど、組織運営体制の強化し、法人独自の財務会計、人事給与システムを稼働させた。</p> <p>○物品購入時の検品について窓口を総務課に一元化するなど事務処理の簡素化・効率化を推進した。</p>	<p>○現場に出向いて行う技術支援において、一つの技術課題だけでなく、複数の技術課題に対しても対応でき、課題発見から課題解決までを一貫して包括的に支援できる職員のマンパワーは法人の大きな武器である。そのような職員を今後も数多く確保・育成し、快適な職場環境を維持しつつ、産技研のクオリティの高さを積極的にアピールすることを望む。</p> <p>○高い顧客満足度を維持するためにも、産技研最大のリソースである人材の意欲向上、不断の資質向上に配慮したマネジメントに引き続き取り組まれたい。</p>
H24	H25					
A	A					
<p>財務内容の改善</p> <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>A：計画どおり</p>	H24	H25	A	A	<p>○自己収入増加に向けた各種の取組、外部資金獲得のために応募をサポートする体制整備、自己収入に繋がる様々な事業がいずれも目標値を上回る実績をあげた結果、事業収入の増加、支出面での予算の効率的・効果的執行により、財務内容の改善が行った。</p>	<p>○事業収入の確保や外部資金の獲得による自己収入増加に向けた取組みは高く評価できる。府民の多くが、事業の実績や健全な財務内容を容易に理解できるような情報発信に努めてほしい。</p> <p>○例えば、人件費ベースでみたときのアクティビティや、技術サービスにかかるコストと産技研の管理にかかるコストの比率などについて、他の代表的な公設試のベンチマークと比較することにより、より評価がわかりやすくなると思われる。</p>
H24	H25					
A	A					
<p>その他業務運営に関する重要事項</p> <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>A：計画どおり</p>	H24	H25	A	A	<p>○法令遵守と安全確保について、組織内での情報共有や職員研修を実施し、法令違反や情報の漏洩、装置使用や実験上の負傷というリスク管理上の重大事案は発生させなかった。</p> <p>○安全衛生委員会を設置するとともに、コンプライアンスの徹底として法人独自で倫理行動規範や禁止行為等を盛り込んだ倫理規定を制定した。</p>	<p>○過重労働や疲労蓄積による健康障がいが生じる恐れがあるので、メンタルヘルス対策を強化するなど安全な労働環境構築のためのマネジメントにより一層努められることを望む。</p> <p>○安全衛生管理の徹底は、不断の積み重ねが大切であり、ひとたび重大事故が発生すれば研究所の信用は失墜することを肝に命じて取り組んでいただきたい。</p>
H24	H25					
A	A					